



体験談を交え、やさしく子どもたちに環境問題を語る野口さん

環境教育の充実 野口健さんから 環境を学ぶ

総社市環境学校を創設

地域で環境を学ぼうと、総社市環境観光大使で世界的アルピニストの野口健さんが講師を務める「総社市環境学校」を創設。今年1回目のペースで小学校や地域を対象に実施していきます。

第1回目は11月9日、池田小学校の全年約70人が参加し、名勝・豪渓と池田小学校で開催。子どもたちと豪渓を清掃した野口さん。引き続き行われた講話で、エベレストから持ち帰ったごみを示し、「『きれいにしたい』という気持ちを持ち、自分には何ができるかを考えて」と熱く語りました。

多文化共生を推進 外国人とともに 息づけるまちを目指す

AMDグループと協定も締結

市では、国籍や民族を超えた多文化共生の地域社会づくりを目指しています。

昨年6月19日、市は国際・医療系NGOのAMDグループ（本部・岡山市）と多文化共生に関する協定を締結。中学生が在日大使館で業務体験する国際理解の学習や、地域の外国人医療をテーマにした講演会などを連携して実施しています。12月には、市コミュニティ連絡協議会が外国人を招き、もちつきやゲームを通して交流しました。

3月27日には、カストロ・ネーベス駐日ブラジル大使や浜松市長を招いて、多文化共生のフォーラムなどを開催予定です。



市コミュニティ連絡協議会が開いた催し「情熱クリスマス」で、もちつきを体験するブラジル人の子どもたち（12月19日）

総社発 まちづくり・人づくり

総社の将来を見据え、環境教育をはじめ、在住外国人との共生、子育て、農業の各分野で、さまざまな取り組みを行っています。

総社の農業を考える 農業を元気に 農業者を一人でも多く

総社新農業会議が発足

総社の農業を考える「総社新農業会議」が、5月27日に発足。今年8月をめどに、総社市独自の理念や、農業政策の目指す方向性を示す将来ビジョンをまとめていきます。

委員には、生産者、加工や流通関係者、消費者の代表など30人を委嘱しました。

生産・加工・流通・消費・行政の連携・連動を基本に協議が行われています。「持続可能な農業づくり」「食と農の関係づくり」「活力ある地域づくり」のテーマにも議論されており、農業を元気にし、農業に携わる人を一人でも増やすための指針づくりが進んでいます。



総社新農業会議設立総会

子育て王国そうじゃの推進 まち全体で子どもの はぐくみを支える

子ども条例を制定

子育て王国そうじゃを進めるなかで、根幹となる条例として「子ども条例」を制定し、11月15日から施行しました。

子どもの育成に関する基本理念や子どもの権利の内容を定め、まち全体で子どものはぐくみを支え合う仕組みを整えるために制定。家庭や学校、地域などの役割を明確にしています。

条例づくりには、昨年7月31日に開催した総社市子ども議会での提案も採用されています。同議会は、中学生15人が議員となり開会。市長や教育長と議論を深め、子どもにも分かる条例にするため、条例文は「です・ます」調のやさしい表現となりました。

毎月第3日曜日は「そうじゃ家族の日」。この条例で定め、子どもを囲んで家族とのきずなを深める日としていきます。この「家族のきずな」をテーマに携帯写真コンテストを実施。応募者全員の作品を使ったポスターを作り、「そうじゃ家族の日」を啓発しています。



子ども議会で一般質問する中学生議員